

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年11月30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	467040185
法人名	社会福祉法人 明星福祉会
事業所名	南方園グループホームけやきの里
所在地	鹿児島県枕崎市まかや町679番地 (電話) 0993-76-3461
自己評価作成日	令和4年10月18日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境に恵まれ、四季折々の景色が楽しめるけやきの里では、1年中、花を育てており、敷地の畑では職員と一緒に野菜を育て収穫をしたりして楽しみや生きがいに繋がっています。そしてコロナ禍で現在は行えていませんが地域向けに「けやきカフェ」を開店したり他施設との交流や行事に参加するなど地域の方々とのふれあいを大切にしています。ご利用者にとっても交流の機会や楽しみのひとつとなっております。庭にはけやきの大木があり、気候の良い日はそこでお茶会をしたり、花や景色を楽しみながらくつろいだりと憩いの場になっています。その他、レクリエーションなど日中の活動も支援しており、ご利用者が自分らしく主体的に生活できるように職員一丸となって日々の支援や認知症ケアに取り組み、みなさん明るく穏やかな生活をされています。行事などでは隣接する介護老人福祉施設と協力し、夏祭りや運動会など開催し地域との関わりをしていましたが、現在はコロナ禍で行えないので、事業所単独で室内夏祭り・室内運動会を昨年からは開催しています。防災訓練、職員研修なども積極的に参加し職員の質の向上に努めています。事業所内では認知症ケアの勉強会や事例検討を毎月行い職員の知識や技術の向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、枕崎市役所から10キロメートル程離れた自然豊かな、まかや地区に、同法人の特別養護老人ホームや在宅福祉の事業所に隣接して平成12年に開設されており、少し離れて、小・中学校や枕崎空港、民家等が点在している。周辺の畑地にはお茶や白菜、大根等が大規模に栽培され、雄大な開聞岳も望めており、法人の広い敷地には手入れの行き届いた多種の樹木が植えられ庭石も随所に配置されている。ホームの玄関先の大きなけやきの木の下にはテーブルやベンチが置かれ菜園や花壇も設けてあり、利用者は日常的に四季を感じながら平穏に過ごしている。

法人は開設以来、地域との交流を大切に取り組んでおり、敷地内に地域交流センターを設立してカフェ等を開催し法人主催のイベント(夏祭りや運動会)は住民の楽しみにもなって多くの参加が得られている。ホームは施設見学や体験学習、ボランティアを受け入れ、友人知人の来訪、散歩や買い物時の会話、農産物を頂くなど円滑に交流する関係を築いており利用者の楽しみとなっているが、コロナ禍に配慮して現在はイベントへの家族及び住民の参加やボランティアの受け入れ等は中止している。地域の人を対象とした生活学校(市主催)で認知症ケアや高齢者福祉について講演し、実習生の受け入れも本年度から再開している。

管理者及び職員は理念に沿って、利用者が地域や家族と触れ合いながら、その人らしい平穏な暮らしの支援に取り組んでいる。利用者の尊厳や人格を大切に想いの汲み取りに努め自己決定を尊重しており、入浴等の日課や余暇時間の過ごし方は利用者の意向に添って柔軟に対応し、菜園の野菜収穫や日光浴時に花壇の植物を愛でたり、また、洗濯物たたみや調理の手伝い等は生きがいや楽しみになっている。

管理者及び職員は、信頼関係を大切に気軽に意見を言い合える関係づくりに努めており、日頃の業務の中やミーティング、個別面談等で要望や意見を出し合い、運営やサービスの向上を図っている。勤務シフトには有給休暇の取得促進や個人的事情を可能な限り反映させるなど、働きやすい環境の整備に取り組んでおり、法人による給与体系や外部研修受講料、資格取得時の経費助成等の制度が整備されて、モチベーションの向上に繋がって職員の定着率は良い。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域との関わりを大切にすることを理念に掲げ、職員へも周知と共有を図っている。ご利用者や事業所としての地域との繋がりを大切にしている。	法人の理念を玄関に、また、ホーム独自の理念はホールに掲示し、名札の裏面やパンフレットにも掲載して周知を図っている。毎月のミーティングや日々の申し送り時に意義の確認やケアの振り返りを行って共有に努めており、年度目標（本年度は転倒事故の減少）は定期的に振り返りを行って改善を図る等、理念に添った利用者主体の支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	買い物やドライブ、お墓参りなど外出の途中で地域の方々とふれあったり、他グループホームや施設との交流会などを計画して行っている。（コロナ禍では未実施）	コロナ禍の現在は、家族や友人等の面会は窓越しやデッキで実施するなどコロナの感染状況に応じて工夫しながら実施し、防災訓練には多くの消防団員の参加が得られている。日頃の散歩時には住民とあいさつを交わし、人出の少ない公園等へのドライブ時には自宅周辺の様子を眺めたり農産物を頂くなどの交流を継続しているが、感染予防に配慮して、長年開催してきた地域住民との交流を図る夏祭りや運動会、敬老会等は利用者や職員とで開催している。市主催の生活学校では、認知症や高齢者福祉について講演し、実習生の受け入れも再開している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	ご家族からの相談や見学者や実習生などを受け入れた際、認知症の理解やケアの方法など説明している。また市内の地域密着型の事業所で関わりを持ち、地域貢献や職員交流・研修に取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出された意見や要望はミーティングで取り上げサービスの向上に活かしている。	会議は、家族、民生委員、市担当者等の出席で隔月毎に開催しホームの現況やヒヤリハット、課題等について意見交換してきているが、コロナ禍に配慮して現在は職員のみで開催し、委員には会議録で報告して意見要望を貰うように取り組んでいる。寄せられた意見、要望等は、申し送りやミーティング等で検討して運営やケアの向上に繋げており、結果は委員や家族にも報告している。次回の会議（今月末）は、コロナの感染予防に配慮したうえで委員参加の会議の開催を検討中である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月現状報告を行い、待機者の情報交換を行っている。入退居がある場合や介護保険に関することなど担当の福祉課の方に相談し、ご本人やご家族の望まれる生活を考慮している。	市の担当者とは電話やメール、窓口に出向いて、介護保険の代理申請や各種制度の申請・報告、感染症予防に関する協議、ホームの状況報告等を行い、助言や指導を貰うなど、日頃から協力関係を築いている。WEB会議による市主催の会合や研修にも積極的に参加して運営やサービスの向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内及び法人研修会に積極的に参加し定期的に理解を深めている。基本的には施錠はしないようにしているが、職員体制が手薄になる時のみ玄関の施錠をしている。また、身体拘束防止の視点を含めた認知症事例検討を2ヵ月に1回行っている。	身体拘束や高齢者虐待については運営規定や重要事項、利用契約書に明記され、ホーム独自及び法人全体の研修を計画的に実施して認識を共有している。ミーティングや日頃のケアの中でも振り返りや意見交換等を行い、不適切な言動にはその都度助言し合って改善を図り尊厳や個性、利用者の習慣等を大切に拘束の無いケアに取り組んでおり、適正化を図る指針を整備し委員会も事例研修等も組み入れながら開催している。利用者が不穏な状況や外出したがる時は職員と周辺を散歩して安定を図る等、日常的に気付きに努めて自由で平穏な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内及び法人研修会に積極的に参加し理解を深めている。また、認知症の方の思いが理解できるように特に力を入れている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内及び法人研修会に積極的に参加し理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、生活やケアの方針に対する考え方や取り組みについてを説明し、要望や気になることの聞き取りをしている。改定があった時は都度必要な変更を行い説明をして同意をもらっている。退居時についても意見を聞いたり助言をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やけやき便り、面会時などで現状を報告し意見や要望など伺っている。また、毎年アンケートを実施している。出された意見や要望は、サービスに反映するようにしている。	利用者や家族には、日頃から気軽に意見・要望を言い易い雰囲気づくりに配慮している。利用者の思いは日常の会話や表情、仕草等で汲み取り、家族からは面会（窓越しやテラスで実施）や電話、手紙等で、また、毎月発行の「けやきだより」や利用者毎のアルバムの作成で日頃の状況を伝え意見、要望を聞き取るように努めている。職員は出された要望はミーティング等で検討して改善を図っている	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月代表者へ現状報告や意見を述べる会議がある。事業所では気づきや感じたことをノートに書くようにしてミーティングで取り上げ検討し、サービスに繋げている。	管理者及び職員は日頃から気軽に意見を言える信頼と協力体制の構築に努めており、日常のケアの中やミーティング等で意見や要望等を出し合って改善を図っている。また、必要に応じて法人各事業所の管理者で開催する報告会でも提案して検討している。日頃からケアに対する助言や指導。研修の実施でスキルアップに努め、勤務シフトには休憩時間の確保や有給休暇の取得、個人的事情にも配慮するなど働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の休憩時間をはっきり決め、時間外労働をしないように行事などがある日には勤務態勢を調整している。また、休みの希望や有休など可能な限り応えるように勤務表を作成している。やむなく超過勤務をする場合には手当をつけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部の研修（現在はオンライン研修に参加）の参加や外部講師を招いての法人勉強会を開催している。事業所内でも毎月勉強会を行い、研修記録を記入して力量を把握している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内の地域密着型事業所間で、顔の見える関係作りのために交流会や職員研修会を開催したり地域貢献の為の活動に取り組んでいる。また法人内でも現状や事例を報告する機会がある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接に出向いてご本人や担当職員と話をしたり、見学などして頂き、ご本人、ご家族にここでの暮らしぶりを見てもらう機会を作っている。パンフレットも見直しを行った。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅での状況や以前の介護保険サービス状況について尋ね、事業所としてどのように対応できるか話し合い、ケアプランに反映している。また、契約時に不安なことや要望など聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の要望があれば他のサービス（デイケア）などの利用も可能であることを伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や片付け、洗濯物など生活のなかでできる役割を持ってもらい、花壇の手入れや野菜作りなど職員・ご利用者と共に取り組み、お互いに支え合う関係を意識している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やけやき便りにて生活状況を伝えている。必要に応じて文書や電話で連絡し、近況報告や要望を伺っている。コロナ禍においては、窓越しやオンライン面会など制限下のもとで面会をしてもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物やドライブの時は、ご利用者の地元を通ったり、墓参りなど支援している。コロナ禍においては馴染みの人や思い出を会話に取り入れ忘れないように支援している。	利用開始時に家族や関係者からの情報を「聞き取りシート」に記載して利用者毎の馴染みの人や場を共有しており、家族の意向も確認しながら支援している。コロナ禍に配慮して家族との面会は窓越しやデッキで実施し、人出の少ない公園等へのドライブ時には自宅周辺や街並みを車窓から楽しんでいるが、買い物や外食、会食、墓参、一時帰宅、訪問美容等は控えている。利用者の意向に沿って電話や手紙の取り次ぎに努め、写真を添付した「けやきだより」の送付等、工夫して関係の継続に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶を入れ合ったりお互い手を差し伸べたりと仲の良い入居者同士がお互いに助け合いやすい座席の配置などを考慮している。また、入居者同士の会話や関係が繋がるように職員が気配りしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他関係職種と連携のもと相談や助言をして退居後の不安に寄り添うようにしている。また、退居された方のご家族へご本人の写真を配布している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のご利用者の表情や言動などの様子、またご家族からの情報を基にして、思いや意向をくみ取るように努めている。	会話やコミュニケーションが困難な利用者もいるが、利用者の思いは日頃の会話や仕草、表情等から汲み取り、家族にも確認しながら、その人らしい安全で生きがいのある暮らしの支援に努めている。利用者の意向に沿ってビデオやテレビの視聴、ぬり絵、菜園への散歩、洗濯物たたみ、炊事の手伝い等の取り組みを体調や残存能力に配慮しながら個別に支援し、選択肢を伝えながら決定への工夫を行うなど自己肯定感の習得を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居時のカンファレンス（専用聞き取りシート活用）、ご家族の面会時や本人との語りの中で察したり伺うなどしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の表情や気分の観察を常に心掛け、主体的に過ごせることを支援している。その人のできること、できそうなことを把握し、支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送り・気づきノートなどの記録やチェック表を基にご本人、ご家族、職員から意見を収集したり話し合いをして、ご本人の望む生活を支えることを心掛けてケアプランを作成している。基本3ヵ月毎にモニタリングを行い、計画の見直しや修正を行っている。	利用者や家族の思いを把握し、主治医の指示やモニタリング、ミーティング時の職員の意見を基に改善点等を確認し、習慣や楽しみ事にも配慮した介護計画を作成している。計画は定期的な見直しのほか、状態の変化時には実態に沿って変更して改善に取り組んでおり、内容は家族にも説明している。ケアの実施状況は「業務日誌」や「気付きノート」、各種のチェック表等で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り・気づきノートをホールへ置きいつでも記入、観覧できるようにしている。ノートを基にミーティングや引継ぎ時の申し送りで取り上げ情報の共有を図っている。ケース記録に記入、必要に応じてプランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、買い物や通院の代行支援などを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの飲食店や美容室や温泉、教会やお墓参りに行くことをご家族の協力ももらいながら支援している。(コロナ禍では未実施)		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の意向を確認しながら、事業所の協力医や以前からのかかりつけ医と連携をとり、通院や往診など必要なときに、適切に医療が受けられるよう支援している。	利用者毎の病歴等を把握し、本人・家族が希望する医療機関での受診を支援している。殆どの利用者が協力医療機関を主治医としており、定期的な訪問診療が実施され、また、専門医の受診は家族と連携して同行するなど適切な医療が受けられている。日常的に健康管理が徹底され、隣接の特別養護老人ホームとの協力関係及び医療機関との連携体制も構築されて、利用者及び家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>専属・併任の看護師と連携し健康面の相談をしている。また、併設施設の看護師へ入居者の情報を提供し、緊急の場合など夜間も含めいつでも相談できる体制にある。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時、ご本人と面会したり病院担当者と連絡をとり情報交換や相談をしている。母体の病院との報告会や交流会、市が開催する専門職の研修会など病院関係者と関係を築ける場もあり、連絡体制も構築されている</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居の際にご家族へ重度化対応・終末期ケア対応指針を説明して理解を得ている。又、アンケートを取り、ご本人、ご家族の希望を踏まえて看護師や主治医、協力医の指導のもと希望に添えるよう努力している。</p>	<p>重度化や終末期の対応指針を整備し、入所時や必要に応じて本人や家族に説明して理解を得ており、毎年実施のアンケートでも意向を確認している。利用者が重度化した時点で主治医から病状が説明され、家族と十分に話し合っ可能な限り希望に添った支援に取り組んでいるが、殆どの利用者が最終段階で特養への入所や医療機関への入院に至っている。急変や応急手当、看取りに関する研修も実施して職員のスキルアップや不安感の軽減を図っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時は、看護師や隣接している施設の看護師などに協力をもらい昼夜とも対応できるマニュアルを整備している。事業所勉強会でも年に1回以上手順の確認を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地震や土砂災害を含めた防災・避難訓練や消火訓練を併設の事業所や地域の消防団などと連携し実施している。全国防災訓練（水害）にも参加している。コロナ禍では机上訓練も行っている。</p>	<p>年2回夜間を含む火災や自然災害発生を想定した訓練を消防署や消防団の協力を得て、併設の事業所と合同で実施している。消火器の使用や避難方法、災害に関する研修を実施し、日頃から避難経路や通報等の確認や事例を参考にしながら机上訓練にも努めて防災への意識を共有している。スプリンクラーや火災通報装置を設置し、カセットコンロ、懐中電灯、ラジオ等を備えており、災害時の水や食糧品は法人本部でメニューを作成して備蓄しており、ホームでも3日分程度を保有している。BCP（業務継続計画）は作成済みである。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人ひとりの生活歴や認知症の程度、日頃の様子から読み取れる情報をミーティングなどで話し合い、プライドを傷つけない関わり方に心掛けています。	人格の尊重やプライバシー確保等については計画的な研修の実施や日常的に振り返りや意見交換を実施して適切なケアの実践に取り組んでいる。利用者の習慣や思い、特性を大切に尊厳を損ねる言葉や対応を行わないように日々努めており、居室やトイレ、浴室等はプライバシーの確保に配慮した構造になっている。入室時には声掛けやノックを励行し、衣服の選択や入浴等の時間も柔軟に対応するなど利用者の思いや自己決定を尊重している。利用者に関する帳票等も事務室で適切に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症ケアの勉強会と合わせて自己決定の重要性の理解に努め、日頃の声掛けを本人主体になるように心掛けています。外出や入浴、活動などはもちろん居場所や過ごし方など希望を伺いながら援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時などそれぞれの時間で行動しており、普段の過ごし方や食事、入浴もその人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節毎に衣類をタンスに準備して、自分で選んでもらい、できない方は職員と共に選び支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事作りなどの準備や片付けまで行っている。又、パン作りやバイキング、外で食事をするなど企画し楽しい雰囲気作りに取り組んでいる。食事形態や量、好みも配慮している。	日頃から好みや栄養バランス、形態、季節感、アレルギー、疾病による制限、盛り付け等に配慮し、菜園で収穫した野菜も利用して調理している。お節や節句、誕生日、敬老会などの行事食や、バイキング、手作りのおやつ、園庭でのお茶や弁当等、食事が楽しみとなるよう工夫し、利用者も食材の下処理や片付けを楽しみながら一緒に行っている。現在はコロナ禍に配慮して外食や家族との会食等は控えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬の食材を用い、野菜とタンパク質を多く使った食事を提供している。水分は味や温度など考慮し準備している。食事・水分量が少ない方へはチェック表を用いて本人の好みや能力に合わせた工夫をしている。また、天気の良い時は庭でお茶会をしたり屋内では音楽を流したり雰囲気作りにも努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、できる方へは声掛けにて口腔ケアを促し、自力で難しい方は義歯洗浄、仕上げ磨き、うがいなどできない部分を個別に支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録を基に入居者個々の習慣や機能に応じた排泄援助を行っている。可能な限りトイレで排泄できるように支援している。おむつ使用の方も漏れのないように種類や交換の目安の調整を行っている。	各利用者の排泄パターンを排泄記録で把握し、身体の状況や習慣に配慮した声掛け等で可能な限りトイレでの排泄を支援しており、場所を戸惑うことの無いようトイレは大きな文字で表示している。利用者の状態に応じた介護用品や交換の目安等を介護計画に反映させて改善に取り組んでおり、オムツの消費量の減少も見られている。また、便秘の予防には植物繊維の多い食材や水分の摂取、運動に配慮し、状況によっては主治医にも相談して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時のお茶の時はおやつに芋を使っている。食物繊維を多く取り入れた献立にしたり水分を多く摂ってもらえるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は決めているがご本人の希望や気分に合わせて柔軟に対応している。できる限り一人ひとりのペースでゆっくり入れるように努めている。	週3回、午後の入浴を基本としているが、必要に応じて温タオルやシャワー浴等でも清潔を保っている。入浴の温度や時間、習慣、同性介助等は意向に沿って柔軟に対応し個浴でゆっくり楽しんでもらい、入浴後は水分補給や保湿剤の塗布等を支援している。入浴をためらう利用者には無理強いないで、時間の変更や声かけ等の工夫で、気持ちを汲み取りながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝、昼寝などその都度ご本人に伺いながら希望に添った対応をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理のファイルに一人ひとりの薬の説明書を綴っており、全職員がいつでも見れるようにしている。また、必要に応じてバイタルチェックの回数を増やし記録をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で家事や食事作り、畑や庭や花の手入れなど可能なことは一緒にできるよう支援している。また、事業所の行事がある毎に声を掛け気分転換や楽しみになっている。日々の中では図書館で借りた本やテレビの番組調整やDVD上映をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望での外出は職員体制によってできないことが多いが毎日の散歩や定期的にドライブ・買い物を実施している。家族へも外出を勧めており、連絡があれば準備や段取り、車の乗り降りなど安心して外出できるように支援している。(コロナ禍では未実施)	コロナ禍により外出計画が実施出来ない状況もあるが、利用者の状態に応じた歩行介助で園庭での日光浴や周辺の散歩を日常的に実施している。利用者の希望を汲み取りながら通院や人出の少ない公園へのドライブ時に馴染みの街並みや自宅周辺の様子を車窓から楽しむなど支援しているが、一時帰宅、買い物、外食、墓参等は控えている。室内での軽い体操や音楽・ビデオの視聴、園内ピクニック等工夫した取り組みで気分転換を図っている	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>一社会人としてお金を所持することの大切さを理解し希望や能力に応じてお金の所持を支援している。所持が困難な方は預り金という形で金庫で管理している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご本人の希望や連絡したい様子が伺えたらその都度支援している。ご家族へも面会時などに了解を得ている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>老人車や歩行器、車椅子の方の移動のしやすさや、過ごしやすい室温や湿度、換気に配慮している。また、庭に季節の花を植え、仏壇や玄関、ホールには季節の花や飾り付けをして水槽で金魚を飼っている。食事やお茶の時は音楽を流している。</p>	<p>利用者が昼間の殆どを過ごす廊下やリビングは明るく広いスペースが確保されて開放感に満ちており、遠くには開聞岳が望めている。園庭には多くの樹木や草花、野菜が植えられ、広いデッキが設置されたホールや玄関には随所に活花や利用者の作品、人形等が飾られ金魚も飼育されて季節感のある和やかな雰囲気になっている。テーブルセットやテレビ、ソファ、仏壇等が利用者の利便性に配慮して備えられ、トイレには手すりの設置や大きな文字での表示がされており、室温、湿度、整理整頓、衛生管理も徹底されて、利用者は好みの場所で寛いで過ごしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールにはソファを置き、仲の良い人同士自由に話をしたり、テレビを観たり、本や新聞を読んだり、昼寝などされている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅よりタンスや座椅子や写真など使い慣れた家具や身のまわりのものを持ち込んで頂いている。又、各部屋にボードを設置してご本人の写真や作品を飾って不安なく暮らせるように支援している。</p>	<p>居室はフローリングの床に腰高窓の構造で明るく余裕ある広さが確保され、ベッド、エアコン、押し入れ、展示用ボードが備えられている。利用者は自宅で愛用していた寝具やテレビ、家族写真、小物（バッグや財布等）を持ち込み、自身の作品や長寿祝いで頂いた品物や写真等も飾って、家庭同様に落ち着ける雰囲気のある居室となっている。自室を迷うことの無いように入口には飾りを取り付ける等、工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホールやトイレには手すりを取り付け、能力に応じてベッドに移動バーをつけたり、高さを調節したり一人で立ち上がったり移動しやすいように工夫している。また、トイレや自分の物や部屋がどれか困らないように表示をしている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない